

X-Send for Win32 Ver. 2.1

Kengo Jinno

<KHB04045@nifty.ne.jp>

Apr. 12, 2011

目次

1	概要	1
1.1	特徴	1
1.2	動作環境	1
2	インストール	2
2.1	アンインストール	2
3	基本的な使い方	3
3.1	各部の説明	5
4	原稿ファイル	6
4.1	原稿ファイルを開く	6
4.2	原稿ファイルを閉じる	7
4.3	原稿ファイルを他の X-Send に転送する	8
4.4	原稿ファイルの転送を受け取る	8
4.5	原稿ファイルを行番号付きで保存	9
4.6	原稿ファイルの編集	9
4.7	原稿ファイルの上書き保存・名前を付けて保存	9
4.8	原稿ファイルの情報	9
5	送出	10
5.1	送出方法	10
5.1.1	DDE	10
5.1.2	EditSend 互換	10
5.2	送出先の選択	10
5.2.1	DDE	10
5.2.2	EditSend 互換	10
5.3	送出方法・送出先の状態	11
5.4	送出モードと閲覧モード	11
5.5	F9 キーで送出	12
5.6	Enter キーで送出	12
5.7	編集して送出	12
5.8	空行を送出	12
5.9	コメント	13
6	原稿ファイル内の移動	14
6.1	送出行で左右にカーソル移動	14
6.2	上下にスクロール	14
6.3	マークに移動	15

7	手入力者との連携	16
7.1	原稿のモニター	16
7.2	手入力の要請	16
7.3	LAN 外の場合	18
8	編集画面	19
8.1	編集画面だけで使える機能	20
8.2	編集画面での制限事項	22
9	設定	23
9.1	送出方法	23
9.2	IMS との連携	24
9.3	操作	24
10	実際の運用例	25
10.1	原稿ファイルの準備	25
10.2	セッティング	26
10.2.1	前ロール担当者	26
10.2.2	手入力担当者	26
10.3	本番	26
10.3.1	前ロール担当者	26
10.3.2	手入力担当者	26
10.4	原稿ファイルの切り替え	27
10.5	トラブル発生時の対処	27
11	高度な設定	28
11.1	ツールバーをフラットにする	28
11.2	ツールバーを昔の 98 風にする	28
11.3	ツールバーにシステムフォントを使う	28
11.4	ツールチップを表示しない	29
11.5	単一行のツールチップ	29
11.6	改行記号の文字	29
11.7	マークとして認識する文字	29
11.8	コメントとして認識する文字	30
11.9	DDE サーバーの検索順序	30
11.10	EditSend 方式を優先的に使う	30
12	制限事項	31
13	このソフトについて	32
14	開発者向け情報	33

1 概要

X-Send は、パソコン要約筆記 (文字通訳) での前ロールを流すためのソフトです。

1.1 特徴

- 特定のシステムに依存せず、どのような通信ソフト・入力ソフトでも使えるように (期待して) 設計・開発しています。
- 主に LAN で使うことを想定し、便利な機能があります。
 - * 原稿を流すのに合わせて、他のパソコンの X-Send を同期スクロール
 - * 手入力者と連携しやすいように、「入力してくれ/入力をやめてくれ」という合図を他のパソコンの X-Send に伝える
 - * 前ロールの原稿ファイルを他のパソコンの X-Send に転送

もちろん、LAN 環境ではなくても、「前ロールを流す」という基本的な機能は使えます。

1.2 動作環境

X-Send は Windows9x/2K/XP/Vista/7 で動作します。作者は以下の環境で動作確認しています。

IBM ThinkPad 530CS	Am5x86C	133MHz	12MB	Windows95	(4.00.950a)
IBM ThinkPad 560E	MMX-Pentium	166MHz	48MB	Windows95	(4.00.950B)
No-brand mini-tower	Celeron	366MHz	96MB	Windows98	(4.10.1998)
Casio FIVA MPC-102	MediaGX	266MHz	64MB	Windows98SE	(4.10.2222A)
Toshiba DynaBook DB55C/4CA	Celeron	550MHz	64MB	WindowsMe	(4.90.3000)
Panasonic Let's note CF-A2R4H2	PentiumIII	600MHz	192MB	Windows2000	(5.0.2195)
Toshiba dynabook C9/212PMEW	PentiumIII	1.2GHz	512MB	WindowsXP	(5.1.2600)
FUJITSU LIFEBOOK AH550/5A	Core i5	2.4GHz	4GB	Windows7	(6.1.7600)

Windows3.1+Win32s では動作しないでしょう。

2 インストール

アーカイブを解凍してできる以下のファイルを、X-Send 専用のフォルダに格納してください。(たとえば、C:¥Program Files¥X-Send)

X-Send.exe	実行ファイル
X-Send.pdf	このファイル
X-Send.txt	簡単な説明ファイル
SAMPLE.txt	サンプルテキストファイル
XSD.exe	実行ファイル (X-Send.exe が使用)
EditSend.dll	DLL ファイル
Scintilla.dll	DLL ファイル
SORC.ZIP	ソースファイル
License.txt	Scintilla のライセンス表示

X-Send を実行すると、このフォルダに INI ファイル (設定ファイル) が作成されます。

2.1 アンインストール

X-Send のフォルダごと削除してください。ショートカットを作っている場合はそれも削除してください。

X-Send は、レジストリに書き込んだり、他のフォルダにファイルを作ったりすることはありません。

3 基本的な使い方

X-Send.exe を起動すると、図 1 のようになります。



図 1: 起動直後

- この時点では、まだ何の原稿ファイルも開かれていません。

[F1]キーか「開く」ボタンを押して、原稿ファイルを開くと図 2 のようになります。

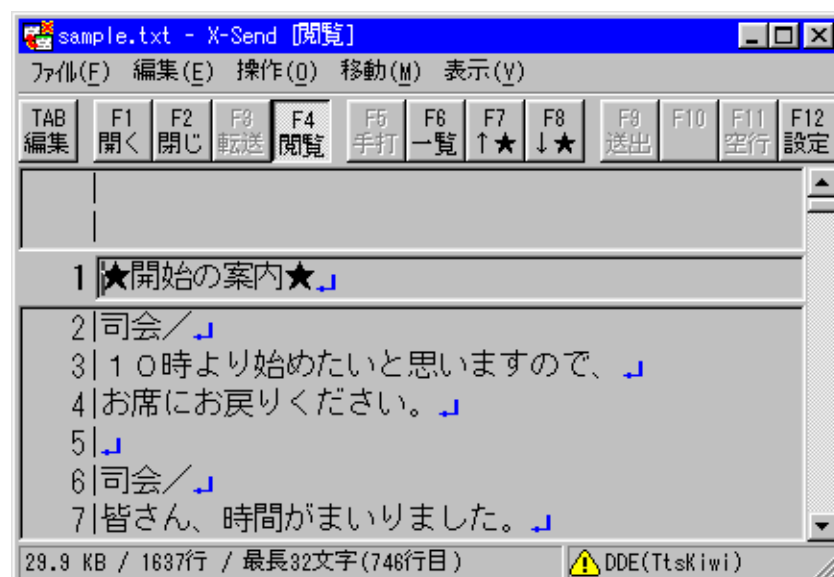


図 2: 原稿ファイルを開いた状態

- 原稿ファイルが読み込まれ、内容が表示されます。
- 左端には行番号が表示されます。

まだこの状態は「閲覧モード」であり、送出（原稿の送り出し）はできません。**[F4]**キーか**閲覧**ボタンを押すと「送出モード」に変わり、図3のようになります。

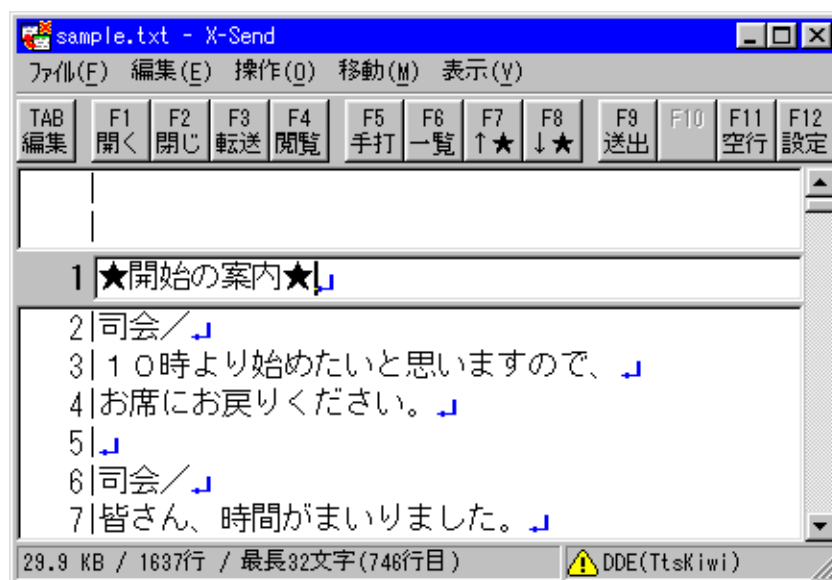


図 3: 送出モード

送出方法・送出先 (P.10) を設定し、**[F9]**キーか**送出**ボタンを押すと、1行ずつ送出していきます。

3.1 各部の説明

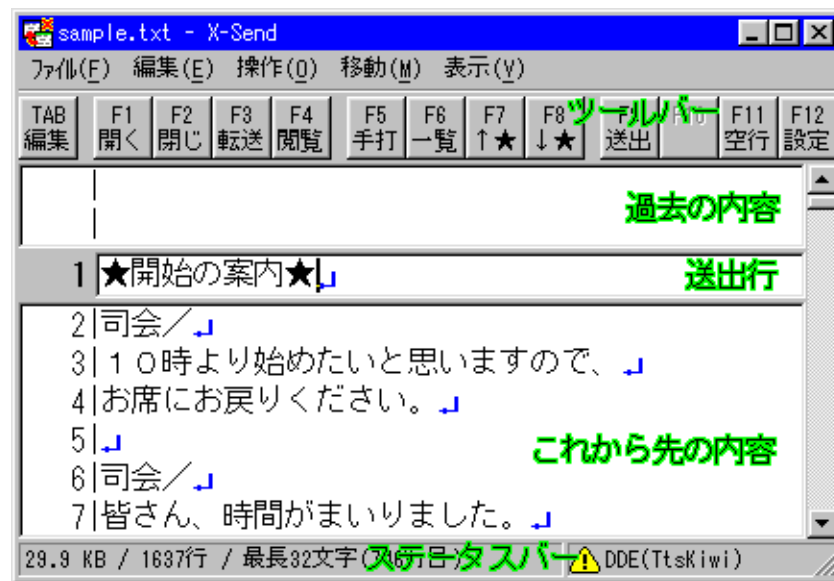


図 4: 各部の説明

- ツールバー

そのまま各キーに対応しています。マウスでボタンをクリックするのでも、キーを押すのでも、同じように機能します。

TAB	編集	送出行画面/編集画面を切り替える	P.19
F1	開く	原稿ファイルを開く	P.6
F2	閉じ	原稿ファイルを閉じる	P.7
F3	転送	原稿ファイルを他の X-Send に転送する	P.8
F4	閲覧	閲覧モードと送出行モードを切り替える	P.11
F5	手打	手入力を要請/解除する	P.16
F6	一覧	マークの一覧から選択して移動	P.15
F7		前のマークに移動	P.15
F8		次のマークに移動	P.15
F9	送出行	送出行の内容を送出する	P.12
F10		(未使用)	
F11	空行	空行を送出する	P.12
F12	設定	設定画面を開く	P.23

- 送出行

原稿ファイルの、これから送出行しようとしている行の内容で、**[F9]**キーで送出行します。

- ステータスバー

各種の情報を表示する領域です。

4 原稿ファイル

X-Send で取り扱える原稿ファイルは「テキスト形式」のみです。他のソフト(エディタやワープロ)で原稿ファイルを作成する時は、「テキスト形式」で保存してください。

4.1 原稿ファイルを開く

原稿ファイルを開くには3つの方法があります。

- ファイルを選択して開く

[F1]キーを押して、ファイル選択画面から選択します。

- 履歴を開く

開いたことのある原稿ファイルは、最大8つまでファイル名を記憶しています。以前に開いたファイルを開く場合は、[ファイル (F)] メニュー内の履歴を使うと便利です。

- ドラッグ&ドロップ

エクスプローラなどからファイルをドラッグして、X-Send にドロップして開きます。

直接「ファイルを開く」のとは違いますが、他の X-Send から転送されてきた原稿ファイルを受け取る (P.8) のも、「開いた」のと同じ状態になります。

ワンポイント

- 複数のファイルを選択・ドロップした場合は、その分だけ新しく X-Send が起動します。
- 何かファイルを開いている状態でファイルを開こうとした場合、「閉じる」処理も行なわれます。「送出モード」になっている時は、特に注意してください。

4.2 原稿ファイルを閉じる

F2キーを押すと、原稿ファイルを閉じ、何も開いていない“(無題)”に戻ります。

通常は「閉じる」操作をする必要はありませんが、今開いているのとは別の原稿ファイルを、他のパソコンから転送 (P.8) してもらって受け取るような場合に使います。

例

- 「主催者挨拶.txt」が開かれている。
 - 他のパソコンで「競技上の注意.txt」を開いてあり、それを転送してもらって受け取りたい。
1. **F2**キーを押して「主催者挨拶.txt」を閉じる。「(無題)」になる。
X-Send 自体を閉じて終了するのではないことに注意。
 2. 「競技場の注意.txt」を開いているパソコンで、**F3**キーを押して転送開始。
 3. それが転送されてきて、読み込まれる。

また、明示的に「閉じる」操作をしなくても、暗黙的に「閉じる」処理が行なわれる場合があります。

- 別の原稿ファイルを開こうとした時。
- 同じ原稿ファイルを開いている 送出モードの X-Send で、「閉じる」処理をした時。

4.3 原稿ファイルを他の X-Send に転送する

LAN で接続されている複数台のパソコンで X-Send を使う場合、それぞれのパソコンで原稿ファイルを開かなくても、どれか一つで開いて他のパソコンに転送することができます。

1. 原稿ファイルを開く。
2. **[F4]**キーを押して送出モードにする。(P.11)
3. **[F3]**キーを押す。
4. 「転送しますか？」と確認されるので、**[OK]** を押す。

4.4 原稿ファイルの転送を受け取る

原稿ファイルの転送を受け取る側では、特に操作は必要ありません。転送が開始されたら自動的に処理が始まり、転送内容を受け取ります。

ワンポイント

- 原稿ファイルは、ファイル名で区別されます。「来賓挨拶.txt」を開いている X-Send は、「祝電披露.txt」が転送されてきてもそれを受け取りません。
- 何も開いていない(“(無題)”)の X-Send は、どんなファイルが転送されてきても、それを受け取ります。
- 転送の受け取りは拒否することができません。また、原稿ファイルのサイズが大きいと時間がかかります。転送していい状況かどうか、確認してから転送するようにしてください。
- 転送時に、さまざまな原因で転送エラーが発生することがあります。転送後には必ず「エラーが出ていないか」確認してください。

4.5 原稿ファイルを行番号付きで保存

〔ファイル (F)〕メニューの〔行番号付きで保存 (S)〕を使うと、行番号が付いた状態で原稿ファイルを保存することができます。

```
1| 開始の案内
2| 司会 /
3| 10時より始めたいと思いますので、
4| お席にお戻りください。
5|
6| 司会 /
7| 皆さん、時間がまいりました。
8| 席におつきください。
9|
10| 司会から開催の挨拶
11| 司会 /
12| 皆さん、おはようございます。
```

原稿ファイルを紙に印刷してチェックする時には、行番号付きで保存したこのファイルを別のエディタ¹で開いて印刷して使えば、「直すべき箇所が何行目なのか」すぐにわかります。

4.6 原稿ファイルの編集

TABキーを押して「編集画面」(P.19)に切り替えれば、原稿ファイルを編集できます。

4.7 原稿ファイルの上書き保存・名前を付けて保存

編集画面 (P.19) でのみ使えます。

4.8 原稿ファイルの情報

ステータスバーの左側に、開いた原稿ファイルの情報が表示されます。左から、原稿ファイルの「サイズ / 行数 / 一番長い行の文字数 (その行番号)」です。

¹例：メモ帳、ワードパッド、MS-Word

5 送出

X-Send 自身の機能は、「原稿の内容を 1 行ずつ (同じパソコン上の) 他のソフトに渡す」だけです。「どんな方法 (送出方法) で、どのソフト (送出先) に渡すのか」は、適切に選択する必要があります。

5.1 送出方法

送出方法には、「DDE」と「EditSend 互換」の 2 つの方法があります。「DDE」がデフォルトです。

5.1.1 DDE

DDE サーバー機能を持つ入力ソフトに送出する時に使います。たとえば TtsKiwi や TTS には DDE サーバー機能があります。

5.1.2 EditSend 互換

DDE サーバー機能を持たない入力ソフト²に送出する時に使います。EditSend と同じ方法を使っているので、汎用性は高いのですが、相手によっては初期設定のままではうまく送出できないことがあります³。

5.2 送出先の選択

5.2.1 DDE

X-Send は起動時に、あらかじめ設定されている順番で DDE サーバーを探し、見つけたものを送出先として選択します。従って、「TtsKiwi または TTS を起動してから、X-Send を起動」すれば、自動的に送出先が選択されます。

「TtsKiwi または TTS を後から起動した」「希望の DDE サーバーではないものが選択された」ような場合は、**[F12]**キーで設定画面 (P.23) を開いて、選択します。

5.2.2 EditSend 互換

[F12]キーで設定画面を開いて、設定します。

- **[EditSend 互換]** をチェック
- **[送信先ウィンドウ (W) ...]** を押して、送信先のウィンドウ (文字入力する部分) を選択する。
- 必要なら、**[メッセージ (M) ...]** を押して、設定する。

²IPtalk とか tach とか。

³IPtalk も tach も、メッセージの設定で **[VK.RETURN を使う]** をチェックする必要があるようです。

5.3 送出方法・送出先の状態

ステータスバーの右側にあるアイコンで、送出方法・送出先の状態を示しています。

DDE を選択		送出先の DDE サーバーが見つからない
		送出禁止 (閲覧モード or 手入力要請)
		送出可 (送出モード)
EditSend を選択		送信先ウィンドウが見つからない or 未設定
		送出禁止 (閲覧モード or 手入力要請)
		送出可 (送出モード)

5.4 送出モードと閲覧モード

[F4] キーで切り替えます。

- 送出モード

- * 原稿を送出できます。
- * LAN で接続されているすべてのパソコン上で、ある X-Send を送出モードにすると、他の X-Send は自動的に閲覧モードになります。(送出モードは一つだけ)
- * 他の X-Send に原稿ファイルを転送することができます。

- 閲覧モード

- * 原稿の送出はできません。“見るだけ”です。
- * 送出モードの X-Send に同期して (同じ位置に)、自動的にスクロールします。
- * 転送されてきた原稿ファイルを受け取ります。

ワンポイント

送出方法・送出先の設定は、設定画面 (P.23) を開かなくてもできます。

- ステータスバーの右側を右クリック
メニューから選択して、DDE サーバーを検索したり、一覧から選択したり、EditSend 互換に切り替えたりします。
- ステータスバーの右側を左ダブルクリック
DDE を選択されていれば検索が実行され、EditSend 互換を選択していればウィンドウ選択が開きます。

5.5 **F9**キーで送出

カーソルがどの位置にあっても、送出行の内容を丸ごと送出します。自動的に次の行に移ります。

F9の代わりに **Ctrl**+**Enter** も使えます。

5.6 **Enter**キーで送出

送出行の選択範囲またはカーソルよりも左の部分を送出します。それ以外の部分はそのまま残り、送出行が空っぽになったら次の行に移ります。

5.7 編集して送出

送出行内で編集することもできます。

ただし、編集できるのは1行分だけで、送出したりスクロールしたりすると、編集した内容は失われてしまいます。

5.8 空行を送出

F11キーを押すと、送出行はそのまま (スクロールせずに) 空行を送出します。

ワンポイント

- 送出関係の設定は、「閲覧するだけ」の X-Send では不要です。
- 空行を送出しても、X-Send の画面には変化はありません。

5.9 コメント

X-Send は、行頭に「#」がある行をコメント(注釈)として認識します。コメントの行では、

- 反転表示する。(図 5)
- **F9**や**Enter**キーを押しても 送出は行なわれず、次の行に移るだけ。

となります。

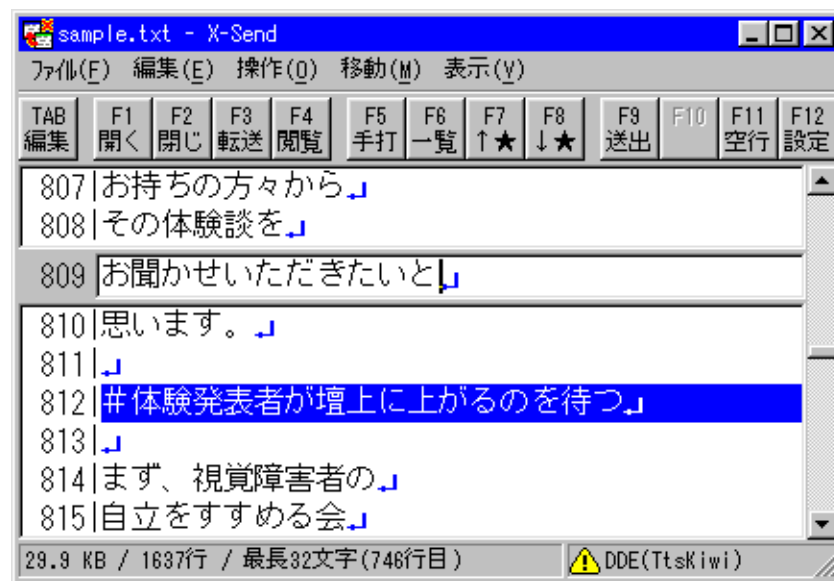


図 5: コメント

前ロール担当者(や、それをモニター(P.16)している手入力者)に注意を促したい事柄は、原稿ファイルの中にコメントで書いておけば、目立ちますし、誤ってそれを送出してしまうこともありません。

ワンポイント

- “#” は、音楽記号の “ ”(シャープ)ではありません。IME によって異なりますが、
 - * **Shift**+**3** して **確定** “#”
 - * シャーぷ **変換** 音楽記号の “ ” ×
 であることが多いようです。
- 「コメントの記号として、“#”ではなく“》”を使う」ようなこともできます。(「高度な設定」P.30)
- 送出行内で行頭の“#”を削除しても、送出はできません。

6 原稿ファイル内の移動

6.1 送出行で左右にカーソル移動

Home	Ctrl+A ⁴	Alt+ <input type="checkbox"/> ⁴	行頭に移動
End	Ctrl+F ⁴	Alt+ <input type="checkbox"/> ⁴	行末に移動
<input type="checkbox"/>	Ctrl+S ⁴		左に移動
<input type="checkbox"/>	Ctrl+D ⁴		右に移動

6.2 上下にスクロール

F9	Ctrl+Enter	送出行で1行移動
Enter	Ctrl+M	送出行で、送出行が空っぽになれば1行移動
<input type="checkbox"/>	Ctrl+E ⁵	上に移動
<input type="checkbox"/>	Ctrl+X ⁵	下に移動
PageUp	Ctrl+R ⁵	1ページ上に移動
PageDown	Ctrl+C ⁵	1ページ下に移動
	Ctrl+Home	ファイルの先頭に移動
	Ctrl+End	ファイルの末尾に移動
	Ctrl+J	行番号を指定して移動

⁴ 「[ダイヤモンドカーソルを使う (A)]」 (P.24) を設定している時に有効。

⁵ さらに「[上下の移動もする (X)]」 (P.24) を設定している時に有効。

6.3 マークに移動

X-Send には、行頭に「**★**」がある行をマーク (目印) として認識し、その行へ簡単に移動できる機能があります。

時間の都合で進行の順序が入れ替わったり省略されたりするのはよくあることですが、あらかじめ適切なマークを入れて原稿ファイルを作っておけば、すぐにその位置に移動できます。

F6	マークの一覧 (図 6) から選択して移動
F7	前の (過去の) マークに移動
F8	次の (未来の) マークに移動

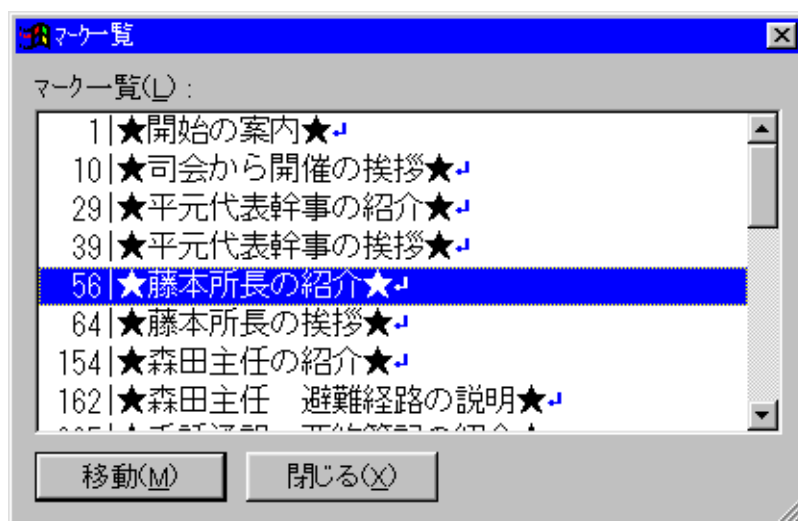


図 6: マーク一覧

ワンポイント

- マークの行でも、**F9**や**Enter**キーを押すと、送出してしまいます。
- 「[マーク行をコメント扱いする (N)]」(P.24) を設定すると、マークの行もコメント (P.13) として扱われ、送出はできなくなります。
- 「[カーソルは右端に (R)]」(P.24) を設定していると、マークの行が長い時に送出行が横スクロールして、行頭のマークが見えない場合があります。行末にも「**★**」を入れておくと、そのような場合でも「マークである」と判別しやすくなります。
- 「マークとして、“ ”ではなく“ ”を使う」ようなこともできます。(「高度な設定」P.29)

7 手入力者との連携

前ロールの担当ではない手入力者も X-Send を使えば、お互いの連携がしやすくなります。

7.1 原稿のモニター

前ロール担当者が流しているのと同じ原稿ファイルを X-Send で開いて (閲覧モードにして) おけば、前ロール担当者の操作に合わせて自動的にスクロールします。

- 原稿の先を見て、「そろそろ終わりそうだ」「アドリブで別の話をするかもしれない」などを判断し、手入力できるように備える。

もちろん、原稿ファイルそのものを開くのではなく、転送 (P.8) されたものでも同じです。

7.2 手入力の要請

前ロール担当者が、「原稿とは違う・原稿には無い」と判断した場合は、**[F5]**キーを押して 手入力を要請 します。

- 送出行が編集不可になり、送出は禁止されます。(図 7)
- 手入力担当者の (閲覧モードの) X-Send の画面は、反転表示になります。(図 8)
- 手入力担当者は、それを「打て」の合図だと判断し、入力を開始します。

手入力を要請している間、前ロール担当者は「話が先の方に飛んでいないか?」「そのうち原稿に戻らないか?」を探すようにします。原稿に一致する部分を見つけたり、話が原稿に復帰したら、その行に移動して再度 **[F5]**キーを押し、要請を解除 します。

- X-Send の画面は元の表示に戻ります。
- 手入力担当者は、X-Send の送出行を見て「次に送出しようとしている内容」を確認し、その直前まで入力して、打つのを止めます。

ワンポイント

- 原稿は、「ファイル名」で区別されます。
「祝電披露.txt」と「来賓挨拶.txt」の2つの原稿ファイルを開いている場合、「祝電披露.txt」を流している間は、「来賓挨拶.txt」はスクロールしませんし、手入力の要請にも反応しません。



図 7: 手入力要請 前口ロール担当者側

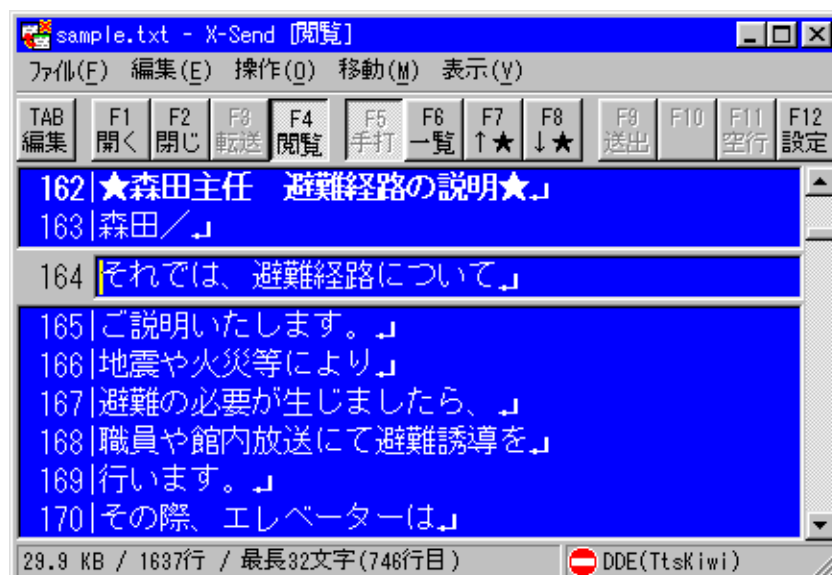


図 8: 手入力要請 手入力担当者側

7.3 LAN 外の場合

X-Send のネットワーク機能 (P.31) は、LAN 内 (同じネットワークアドレス) でしか使えません。

- インターネットなど、ネットワークアドレスが違うパソコン間で使う。
- ネットワークを使わない (シリアルなど) 環境。

などでは、原稿のモニター (同期スクロール) や手入力の要請は機能しません⁶。

ネットワークさえつながっていれば、入力モニターサーバーを併用して連携する方法 (P.24) もあります。この場合、モニターする側の手入力者は X-Send は使いません⁷。

⁶送出モードの X-Send は、そのような指令を送ったつもりになっているが、閲覧モードの X-Send には届いていないので反応しない。

⁷使ってもあまり意味がない。

8 編集画面

[TAB]キーを押して「編集画面」(図9)に切り替えれば、原稿ファイルを編集することができます。既存の原稿ファイルを編集するだけでなく、原稿ファイルを新規に作る時にも使えます。

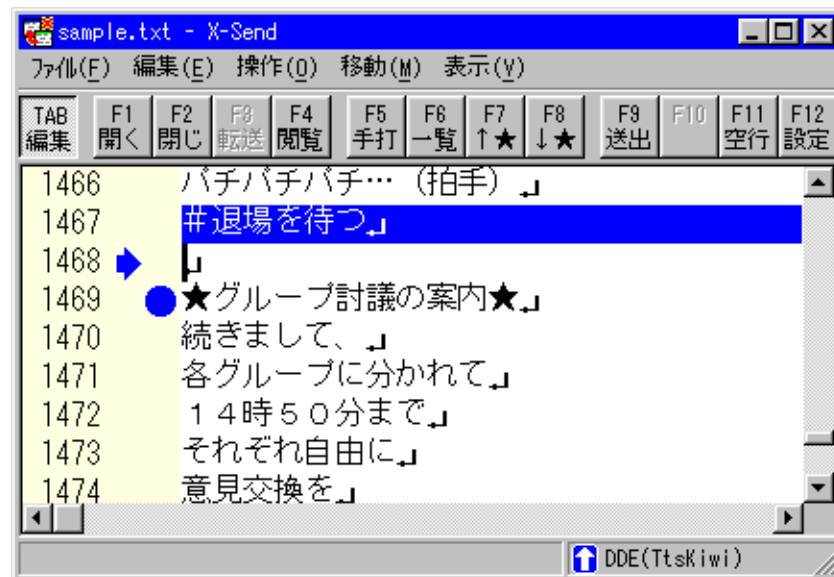


図 9: 編集画面

編集画面の文字編集機能は、(あまり豪華な機能は付いていませんが)一般的なエディタ・ワープロソフトとほぼ同じです。

- 反転している行は、「コメント行」(P.13)であることを示しています。
- 「 ↓ 」は、その行が「マーク行」(P.15)であることを示しています。
- 「 ↓ 」は、カーソルのある行を示しています。

元の送出画面に戻るには、再度 **[TAB]**キーを押します。

ワンポイント

- 「編集した内容を生かして送出画面に戻る」には、保存する必要があります。
- 「編集して保存しないまま送出画面に戻る」には、編集内容を取り消して(元に戻して)戻ることしかできません。

8.1 編集画面だけで使える機能

- 原稿ファイルの保存

[ファイル (F)] メニューの [上書き保存 (S)] や [名前を付けて保存 (A)...] で、原稿ファイルを保存することができます。また、内容を更新した状態で送画面に戻ろうとしたり、終了しようとした時には、保存するかどうか確認を求められます。原稿ファイルの保存形式は「テキスト形式」のみです。

- やり直しのやり直し (リドゥ)

「やり直し (アンドゥ)」と組み合わせて使うことが多いです。

- * [編集 (E)] [やり直し (U)] / **[Ctrl]+[Z]**

更新した内容を、過去に遡って元に戻す。

- * [編集 (E)] [やり直しのやり直し (Y)] / **[Ctrl]+[Y]**

元に戻したところから、未来に向かって進めていく。

- 検索・置換

- * [編集 (E)] [検索 (F)...] / **[Ctrl]+[F]**

指定したキーワードを検索して、その位置へ移動する。

- * [編集 (E)] [置換 (R)...] / **[Ctrl]+[R]**

指定したキーワードを検索して、他の文字列に置き換える。

- マークやコメント文字の挿入

「マークとして認識する文字 ()」や「コメントとして認識する文字 (#)」を行頭に挿入します。

- * [編集 (E)] [行頭に挿入 (I)] [マーク (M)]

- * [編集 (E)] [行頭に挿入 (I)] [コメント (C)]

これらの文字を手入力・変換して挿入すると、間違っって「よく似た別の文字」になってしまうことがあります。この機能を使えばそんな心配はいりません。

- ロールアップ・ダウン

カーソル位置は変えずに、テキスト全体を上下に移動します。

- * [移動 (M)] [ロールアップ] / **[Alt]+[↑]**

- * [移動 (M)] [ロールダウン] / **[Alt]+[↓]**

- 文字数線の表示

[表示 (V)] メニューの [文字数線 (E)] で、文字数線の表示の有無を切り替えることができます。図 10 は、「10 文字」に設定した例です。

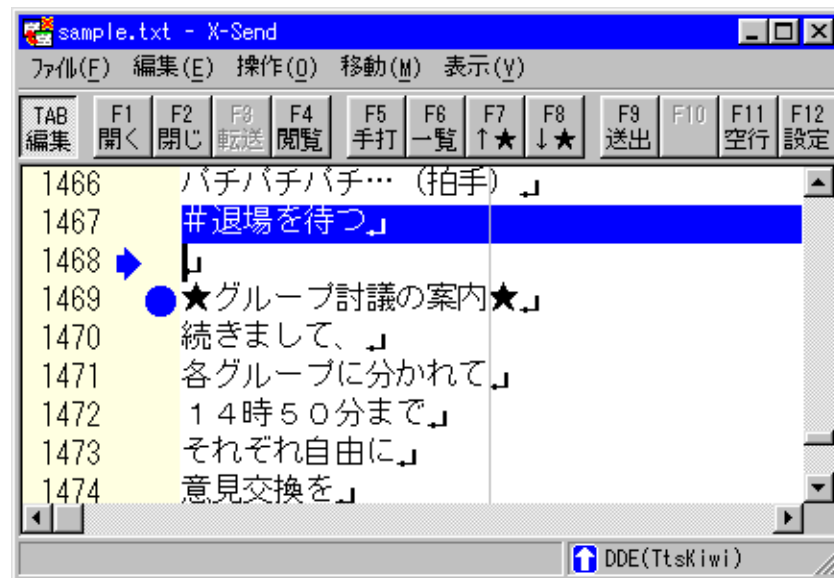


図 10: 文字数線の表示

1 行に表示できる文字数を目安に編集・整形する場合、この文字数線を使えば、いちいち数えなくても済みます。

ワンポイント

- プロポーションナルフォント⁸を選択していると、実際の文字数と文字数線の位置が一致しない場合があります。

⁸ 「MS Pゴシック」や「MS UI Gothic」など、「文字ごとに幅が違う」フォント。

8.2 編集画面での制限事項

- 他の X-Send から原稿ファイルを閉じる (P.7)
同名の原稿ファイルを開いている送出モードの X-Send でファイルを閉じて、こちらは閉じずに開いたままで、編集作業を継続できます。(こちらが送出モードで閉じれば、他の X-Send (閲覧モード) は閉じます)
- 原稿ファイルの転送 (P.8)
転送はできません。また、他から転送されてきてもそれを無視し、受け取りません。
- **Enter** キーでの送出 (P.12)
無効です。**Enter** キーは「改行」として機能します。**(F9)** / **(F11)** は使えます)
- 同期スクロール (P.16)
無効です。
- 手入力の要請 (P.16)
手入力を要請されても、表示は反転しません。(「要請する」ことはできます)
- ダイヤモンドカーソル (P.14, 24)
無効です。

ワンポイント

- このような制限事項があるため、連携機能を有効活用するためにも、現場では「原稿を直す」時以外は編集画面を使わない方がいいでしょう。
- また、編集した後は、
 1. 保存する
 2. 送出画面に戻る
 3. 転送するという手順をとるのが一般的でしょう。転送を忘れると、他の X-Send は「修正前の原稿」のままです。
- 「おおまかな原稿しかなく、その場で直し(入力し)ながら送る」ような目的に、編集画面が使えるかもしれません。

9 設定

[F12]キーで設定画面が開きます。



図 11: 設定画面

9.1 送出方法

- **[DDE]**
DDE サーバー機能を持つ入力ソフトに送出する時に選択します。
 - * **[サービス名 (S)]**
送出先のサービス名を、一覧から選択します。一覧に無い場合は入力もできます。
 - * **[検索 (F)]**
一覧のサービス名で順番に検索します。
- **[EditSend 互換]**
DDE サーバー機能を持たない入力ソフトに送出する時に選択します。
 - * **[送信先ウィンドウ (W) ...]**
入力ソフトの入力窓 (ウィンドウ) を選択します。
 - * **[メッセージ (M) ...]**
うまく送出できない時に、パラメータを変更します。

「サービス名を(一覧から選択するのではなく)入力する」以外の設定は、ステータスバーの右側の領域を右クリックしたメニューでも行なえます。(P.11)

9.2 IMS との連携

X-Send のネットワーク機能 (P.31) は、LAN 内 (同じネットワークアドレス) でしか機能しません。インターネットなど、ネットワークアドレスの違うパソコン間で、手入力者と連携するためには、入力モニターを併用します。

X-Send には入力モニターサーバー (IMS) と連携する機能があり、(手入力する) 他のパソコンからは入力モニタークライアント (IMC) でモニターします。

- [入力モニターサーバーと連携する (C)]
連携機能を有効にします。送出モードになっていれば、送出行の内容を入力モニターサーバーに渡し、他のパソコンからモニターできるようにします。
- [手入力要請の文字列 (H)]
手入力要請が出ている間、入力モニターサーバーに渡す文字を指定します。

ワンポイント

- もちろん、通常の LAN 内ならば X-Send 自身のネットワーク機能が使えます。

9.3 操作

- [ダイヤモンドカーソルを使う (A)]
Ctrl+A S D Fなどで、カーソル移動できるようにします。(P.14)
- [上下の移動もする (X)]
Ctrl+R E X Cで上下の移動をできるようにします。送出行内のクリップボード操作として、Ctrl+X Cを使うことはできなくなります。(P.14)
- [カーソルは右端に (R)]
送出モードになっている時に、送出行のカーソルが右端に来るようにします。主に Enterキーを使って送出する場合に、そのまま Enterキーを押せば、1行丸ごと送出されるようになります。その代わり、行が長い時に横スクロールして、行頭(左端)が読めないことがあります。
閲覧モードでは、ここをどのように設定していても、常に左端です。
- [マーク行をコメント扱いする (N)]
マーク行をコメント行と同様に扱い、送出できないようにします。マーク行として「送出しては困る」内容を使っているような場合、マーク行で誤って送出しようとしても、送出されることがなくなります。また、コメントと同様、反転表示します。

10 実際の運用例

10.1 原稿ファイルの準備

- 1行に表示できる文字数を考慮して、1行の文字数が適切になるように編集します。
- ひとまとまりの原稿は、一つのファイルにまとめるようにします。

開会式全体の原稿を、「開会式.txt」として作成。

「開会宣言.txt」「主催者挨拶.txt」「来賓紹介.txt」..... と分割。

細かく分割すると、原稿の切り替え (P.27) に手間(と時間)がかかります。

- 目印となる位置にマークを入れたり、注意事項をコメントとして書いておきます。



```
開会宣言
...
主催者挨拶
...
#代理の人が挨拶するかも。
...
来賓紹介
...
祝電披露
...
本日の日程
...
分科会会場の案内
...
```

ワンポイント

- 「間に空き時間がある」場合は、原稿ファイルを分けても構いません。
例：「開会式.txt」と「閉会式.txt」
- 空き時間があるかどうか事前に判断できない場合は、分けない方が無難です。
例：「開会式.txt」と「基調講演.txt」を分けていたが、開会式が終わり原稿ファイルの切り替えに手間取っているうちに、すぐ基調講演が始まってしまった。
- あらかじめ X-Send を 2 つ起動しておいて、「開会式.txt」と「基調講演.txt」を開いておけばいい？ そういう方法もありますが、手入力者側も 2 つ起動して(転送してもらって)おく必要があります。

10.2 セッティング

10.2.1 前ロール担当者

1. TtsKiwi を起動し、接続します。
2. X-Send を起動し、アイコンが「送出禁止」になっているのを確認します。
3. 原稿ファイルを開き、**[F4]**キーを押して送出モードにします。アイコンが「送出可」になっているのを確認します。
4. 手入力担当者のセッティングを待って、**[F3]**キーを押して、原稿ファイルを転送します。

10.2.2 手入力担当者

1. TtsKiwi を起動し、接続します。
2. X-Send を起動し、適当な位置とサイズに調整します。
3. 原稿ファイルが転送され、転送エラーが無いのを確認します。

10.3 本番

10.3.1 前ロール担当者

1. 話のタイミングに合わせて、**[F9]**キーまたは**[Enter]**キーで送出していきます。
2. 話が原稿から外れたら、**[F5]**キーを押して、手入力を要請します。
3. 話が原稿に戻る箇所を探します。
4. 見つけたらその行に移動し、**[F5]**キーを押して、要請を解除します。
5. 手入力者が入力し終わるのを待って、送出を再開します。

10.3.2 手入力担当者

1. 話の流れを見ながら、いつでも手入力できるように備えておきます。
2. 手入力要請が来たら、手入力を開始します。
3. 要請が解除されたら、その直前までを入力して、入力を止めます。

10.4 原稿ファイルの切り替え

原稿ファイルが複数ある場合に、あるファイルが終わって次のファイルに切り替えるには、次のようにします。

1. 送出モードになっている X-Send で、次の原稿ファイルを開く。(同時に閉じる処理が行なわれる)
2. 同じ原稿ファイルを開いていた その他の (閲覧モードの) X-Send は自動的に“(無題)”に戻る。
3. 送出モードの X-Send で **[F3]** キーを押して、転送する。
4. 転送エラーがないか確認し、エラーなら再転送する。

このように、送出モードの X-Send を操作するだけで、他の X-Send も同時に、次の原稿ファイルに切り替えることができます。

10.5 トラブル発生時の対処

- 前ロールを流している最中に、なんらかの原因⁹で X-Send から送出できなくなった。
- 手入力を要請して原稿を探していた。手が空いている他の人はすぐに次の位置を見つけたのに、担当者は見つけられないまま時間が過ぎている。

ような場合、他のパソコンの X-Send を **[F4]** キーで送出モードにすれば、そちらから送出を再開することができます。

ワンポイント

- トラブルではなくても、前ロール担当者が複数いて、交代しながら送出するような場合も、次の担当者がそのパソコンの X-Send を送出モードにすれば、そちらから送出できるようになります。

⁹パソコン本体や LAN の不調、ソフトが落ちてしまった、など。

11 高度な設定

INI ファイル (設定ファイル) を直接編集します。

注意

- 設定変更が必要になることは、ほとんどありません。
- もし設定変更する場合は、意味を充分理解してからにしてください。
- INI ファイルは起動時に読み込まれるので、いったんすべての X-Send を終了して、書き換えた後で、再度起動してください。

11.1 ツールバーをフラットにする

ツールバーを平面状に表示します。

```
[X-Send]  
FlatToolbar=1
```

デフォルト (無指定) は 0 (フラットにしない) です。

IE3 以降の環境でないと、効果がありません。

11.2 ツールバーを昔の 98 風にする

ツールバーのボタンを、5+5+5 の 15 個表示にします。

```
[X-Send]  
FunctionKey10=1
```

デフォルト (無指定) は 0 で、4+4+4 の 12 個表示です。

11.3 ツールバーにシステムフォントを使う

ツールバーの文字表示に、システムフォントを使います。Windows の設定にもよりますが、大きな文字で表示されるようになります。

```
[X-Send]  
SystemFontOnToolbar=1
```

デフォルト (無指定) は 0 (Windows の設定に従う) です。

IE4 以降の環境でないと、効果がないようです。

11.4 ツールチップを表示しない

ツールチップ (バルーンヘルプ) を表示しないようにします。

```
[X-Send]  
NoTooltip=1
```

デフォルト (無指定) は 0 (表示する) です。

11.5 単一行のツールチップ

ツールチップ (バルーンヘルプ) を、複数行ではなく単一行で表示します。

```
[X-Send]  
MultilineTip=0
```

デフォルト (無指定) は 1 (複数行) です。

ただし、IE3 未満の環境では、デフォルトで単一行です。

IE3 未満の環境で無理矢理 1 を指定しても、たぶん正常動作しません。

11.6 改行記号の文字

改行記号の文字を変更します。

```
[X-Send]  
NewLineChar=175
```

デフォルト (無指定) は 191 で、上から左に曲がった矢印です。

175 を指定すると、下向きの矢印になります。

11.7 マークとして認識する文字

マークとして認識する文字を変更します。

```
[X-Send]  
MarkString=" "
```

デフォルト (無指定) は “ ” です。

2 文字以上でも指定できます。“ ” と指定すると、「 始まり」はマークと認識せず、「 終わり」はマークと認識します。

“(空文字) を指定すると、マーク機能は無効になります。

11.8 コメントとして認識する文字

コメントとして認識する文字を変更します。

```
[X-Send]  
CommentString="》 "
```

デフォルト (無指定) は “#” です。

2文字以上でも指定できます。“%&”と指定すると、「%コメント？」はコメントと認識せず、「%&コメント？」はコメントと認識します。

“(空文字)”を指定すると、コメント機能は無効になります。

11.9 DDE サーバーの検索順序

DDE サービス名の一覧、サーバーの検索順序を変更します。

```
[DDE]  
ServiceList="TTS;TtsKiwi;RTD"
```

デフォルト (無指定) は “TtsKiwi;TTS;RTD;XE;EditSend” です。

右クリックメニューの一覧に表示されるのは、8個までです。

11.10 EditSend 方式を優先的に使う

DDE よりも EditSend 方式を優先します。

```
[DDE]  
UseDde=0
```

デフォルト (無指定) は 1(DDE を優先する) です。

12 制限事項

- 原稿ファイルとして読み込めるのは、最大で 30,000 行までです。それを超えた部分は切り捨てられます。
- 1 行の長さは最大で 4,096byte (全角で 2,048 文字) までです。それを超えた部分は次の行として扱われます。
- LAN を介したネットワーク機能は、同じネットワークアドレス¹⁰を持つパソコン同士の間でしか機能しません。具体的には、以下の機能です。

X-Send のネットワーク機能	
原稿ファイルの転送	P.8
同期スクロール	P.16
送出モードになれるのは一つだけ	P.11
手入力要請/解除	P.16
リモートの原稿ファイルを閉じる	P.7

その他、LAN 内の場合でも編集画面では制限 (P.22) があります。

- 閲覧モードになっている X-Send でも、
 - * マウスやキーボードで何か操作している。
 - * 操作をしなくなってから約 5 秒以内。

のどちらかの間は、同期スクロールしません¹¹。ただし、非アクティブであれば、5 秒以内でもすぐに同期スクロールします。

- EditSend.dll が見つからない、あるいは壊れている場合には、EditSend 互換の送出方法 (P.10) は自動的に無効になります。
- Scintilla.dll が見つからない、あるいは壊れている場合には、編集画面 (P.19) は自動的に無効になります。

¹⁰例：192.168.255.0

¹¹逆に言えば、5 秒間ほっとけば、同期スクロールするようになります。

13 このソフトについて

- このソフトは作者である神野健吾<KHB04045@nifty.ne.jp>が著作権を持つフリーソフトウェアです。
- このソフトは無保証です。バグの対処には努力しますが、解決を約束することはできません。
- このソフトを使うことによって、あるいは使えなかったことによって発生した問題について、作者はその責任を負えません。
- 原則として無償で自由に再配布・転載して構いませんが、転載の場合は事後にメールで知らせてくれるとうれしいです。
- ソースの流用・改造は自由です。
- 最新版は、<http://www.vector.co.jp/authors/VA006163/> あたりから見つかるでしょう。

14 開発者向け情報

コンパイルには、Borland C++ Compiler 5.5¹²を使っています。Win32API だけを使った C アプリです。

SORC¥XS¥*. *	X-Send ソースファイル
SORC¥XS¥res¥*. *	X-Send アイコン、ツールバーのビットマップ
SORC¥XSD¥*. *	XSD ソースファイル
SORC¥XSD¥res¥*. *	XSD アイコン
SORC¥Scintilla¥*. *	Scintilla ヘッダーファイル、パッチ
SORC¥DOC¥*. *	ドキュメント ソースファイル

LCC-Win32¹³でもコンパイルできます。

```
> make -f makefile.lcc
```

- XSD.exe はデーモンとして動作し、他の PC と LAN を介した通信を担当します。
- LAN の通信には、9122 番ポートのブロードキャスト (UDP) を使っています。
- Scintilla.dll¹⁴は、オリジナルのソースに変更を加えてコンパイルしてあります。変更箇所は、Scintilla ディレクトリのパッチを参照してください。

¹²<http://www.borland.co.jp/cppbuilder/freecompiler/index.html>

¹³<http://www.cs.virginia.edu/~lcc-win32/>

¹⁴<http://www.scintilla.org/>

15 改版履歴

- 2011/04/12 Version 2.1
 - * 文字数線の設定 UI を変更。
 - * 編集画面のステータスバーに、文字数線の設定値を表示する。
- 2004/02/28 Version 2.0
 - * 保存やその他の操作で「不正な処理」で落ちることがあるバグを修正。
 - * 上書き保存に失敗した場合にメッセージ表示するようにした。
 - * 文字数線とキャレットの色の生成アルゴリズムを変更。
 - * 環境によってはステータスバーの表示が消えることがある対策。
 - * 遅いパソコンから巨大なファイルを転送しようとする、受け取り側でタイムアウトすることがある対策。
- 2002/04/20 Version 1.5
 - * Scintilla.dll を利用した「編集画面」を追加。
 - ▷ ファイルへの保存
 - ▷ アンドウ/リドウ
 - ▷ 検索・置換
 - ▷ マークやコメントの文字を挿入
 - ▷ 文字数線
 - など。
 - * **Ctrl**+**J**で「行番号を指定してジャンプ」できるようにした。
 - * **Ctrl**+**Enter**を**F9**と同様に使えるようにした。
 - * コマンドの簡単な説明をステータスバーに表示するようにした。
 - * 初回の起動時に、サンプルテキストを読み込む機能を追加。
- 2002/03/06 Version 1.4
 - * **F12** [設定] に [マーク行をコメント扱いする] を追加。
- 2001/12/08 Version 1.3
 - * 「表」や「ソ」など、2byte 目が 0x5c の文字をフォルダ名・ファイル名に含むファイルを開けなかったバグを修正。
 - * 「閉じる」処理が行なわれる時に、手入力の要請が解除されるようにした。

- 2001/11/23 Version 1.2

- * 「MarkString=""」と指定すると、すべての行が「マークである」と認識されていたのを修正。
- * 「#」で始まる行をコメントとして扱う機能を追加。(重要 P.13)
- * Win2K/XP(NT4 も?) で正常動作しなかったのを(さらに)修正(したつもり)。
 - ▶ EditSend 方式の送信先ウィンドウ選択で、ファインダーをドラッグ&ドロップしてのウィンドウ選択ができない(ことがある)。

- 2001/11/17 Version 1.1

- * コマンドラインで相対パスで指定されたファイルを開けなかったバグを修正。
- * 半角数字がプロポーショナルなフォントを使っていると、行数によっては行番号の幅がおかしくなるバグを修正。
- * **F6** [マーカー一覧] の作成処理を高速化した。
- * Win2K/XP(NT4 も?) で正常動作しなかったのを修正(したつもり)。
 - ▶ ツールバー、ステータスバーが表示されない。
 - ▶ **F6** [マーカー一覧] が表示されない。あるいは **F6** を押すと落ちる。
 - ▶ ツールチップを表示させていると、送出行内でのカーソル移動がおかしい。
 - ▶ 送出行が横スクロールしていると、改行記号が表示されない。

- 2001/10/20 Version 1.0

- * 初版作成

索引

- DDE 10, 23
 - を優先的に使う 30
 - サーバーの検索順序 30
 - サーバー機能 10, 23
- EditSend 10, 30
 - 互換 10, 23
 - 方式を優先的に使う 30
- IMC 24
- IMS 24
- INI ファイル 2, 28
- LAN 1, 8, 11, 18, 24, 31, 33
 - 無効になる機能 31
- TtsKiwi 10, 26
- TTS 10
- # (コメント) 13, 20, 25
 - (マーク) 15, 20, 25
- やり直し 20
 - のやり直し 20
- アイコン
 - を確認 26
 - ステータスバーの 11
- アンドゥ 20
- エクスプローラ 6
- エディタ 9, 19
- カーソル 12
 - よりも左を送出 12
 - ダイヤモンド 24
 - 移動 14
 - 右端 24
 - 左端 24
- コメント 13, 20, 25
 - として扱う(マーク行を) 24
 - として認識する文字 30
 - として認識する文字を挿入 20
- コンパイル 33
- ショートカット 2
- スクロール 14
 - 1 ページ 14
 - 横 15
 - 送出して 14
 - 同期して 1, 11, 16
- ステータスバー 5, 9, 11
 - を右クリック 11, 24
 - を左ダブルクリック 11
 - 右側のアイコン 11
 - 左側の表示 9
- ダイヤモンドカーソル 24
 - 編集画面での 22
- ツールチップ 29
 - を表示しない 29
 - 単一行の 29
 - 複数行の 29
- ツールバー 5, 28
 - にシステムフォントを使う 28
 - をフラットにする 28
 - を昔の 98 風にする 28
- テキスト形式 6, 20
- ドラッグ&ドロップ 6
- ネットワーク機能 18, 24, 31
- マーク 15, 20, 24, 25
 - として認識する文字 29
 - として認識する文字を挿入 20
 - に移動 15
 - 行をコメントとして扱う 24
- モニター
 - LAN 外の場合 18
 - 原稿の 16, 18
- リドゥ 20
- レジストリ 2
- ロールアップ 20
- ロールダウン 20
- 移動
 - 1 ページ 14
 - ファイルの先頭に 14

- ファイルの末尾に 14
- マークに 15
- 行頭に 14
- 行番号を指定して 14
- 行末に 14
- 左右に 14
- 上下に 14
- 送出行内で 14
- 閲覧モード 4, 11
- 改行記号 29
- 開く 6
 - 原稿ファイルを 6
 - 送出モードで原稿ファイルを 27
 - 履歴を 6
- 空行 12
 - を送出 12
- 検索 20
- 原稿
 - に無い 16
 - のモニター 16, 18
- 原稿ファイル
 - のドロップ 6
 - の準備 25
 - の情報 9
 - の制限事項 31
 - の切り替え 27
 - の転送 8, 22, 26
 - の編集 9, 19
 - の保存 9, 20
 - の履歴 6
 - を開く 6
 - を行番号付きで保存 9
 - を新規に作る 19
 - を分割するかどうか 25
 - を閉じる 7, 22
 - 複数の 27
- 行数 9
 - の制限 31
- 行番号 4, 9
 - を指定して移動 14
- 付きで原稿ファイルを保存 9
- 手入力 16
 - の要請 16, 18, 22, 26
 - 要請の文字列 24
- 制限事項 31
 - 編集画面での 22
- 設定ファイル 2, 28
- 設定画面 10, 11, 23
- 選択範囲
 - を送出 12
- 前ロール 1
- 挿入
 - マークやコメントの文字を 20
- 送出 4, 26
 - しない(コメント) 13, 24
 - カーソルよりも左を 12
 - 禁止 11, 16, 26
 - 空行の 12
 - 選択範囲を 12
 - 編集して 12
 - 編集画面からの 22
- 送出モード 4, 11
 - で原稿ファイルを閉じる 7
- 送出画面 19, 20
 - に戻る 19
- 送出行 5, 12
 - のカーソル位置 24
 - 移動 14
 - 横スクロール 15
 - 編集不可 16
- 送出先 10
 - の状態 11
 - の選択 10
- 送出方法 10, 23
 - の状態 11
 - の選択 10
- 置換 20
- 通信ソフト 1
- 転送 1
 - を受け取らない 22

- を受け取る 8
- エラー 8, 26, 27
- ファイルの区別 8
- 原稿ファイルの 8, 11
- 動作確認 1
- 同期スクロール 1, 11, 16, 18
 - しない条件 31
 - 編集画面での 22
- 入力ソフト 1, 10, 23
- 入力モニター
 - クライアント 24
 - サーバー 18, 24
- 反転表示
 - コメントの 13, 19
 - 手入力要請の 16, 22
- 文字数 9, 25
 - の制限 31
- 文字数線 21
- 閉じる 7
 - 原稿ファイルを 7, 22
 - 送出モードで原稿ファイルを 7
 - 別の原稿ファイルを開く時 7
- 編集
 - して送出 12
 - 原稿ファイルの 9, 19
 - 不可 (送出行の) 16
- 編集画面 9, 19
 - での制限事項 22
- 保存
 - 形式 20
 - 原稿ファイルの 9, 20
 - 行番号付きで 9
- 無題 7, 27
- 履歴
 - 原稿ファイルの 6